

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.31, Feb, 2017

Contents

Original Papers

- 1 FUJITA Masafumi and YASUNISHI Junpei
A Study on Teacher Behaviors for Boosting Pupils' School Morale
: An Examination of Teacher's Interaction Behaviors in Instruction of Physical Education Class
- 11 MAEDA Youichi
A Study of teacher training universities to contribute to region
Academic achievement improvement initiatives supported by the university and the board of education
- 21 MAEDA Youichi and OGURA Sei
Practical Research Psychological Resistance of Teachers in School Reform
- 33 TAKAHASHI Makoto and TANAKA Junichi
Disability Discrimination Act and School Education:
From the experiences in the Special Education in California, the U.S.A
- 41 HARADA Maya and TAKAHASHI Makoto
A Study of Regional Support Programs for Persons with disabilities
: From Practices in Korea
- 49 TAKAHASHI Makoto, YOKOYAMA Yuki and TANAKA Junichi
Development Support in Partnership with Local Communities for Children with Developmental Disabilities
: Through Music Therapy
- 57 YAMADA Azusa, NISHIMURA Kimitaka, IKEDA Seiki and MAEDA Youichi
Relationship between flow experience and satisfaction basic psychological needs in physical education lessons
- 65 KUME Mari and IKEDA Seiki
Improvement of the health room management using the management cycle in elementary school
- 75 Jamshid AHMADIAN, MURATA Mamoru, Maryam AMINOROAYAEI YAMINI, OZAWA Hiroaki, KOZAI Takeshi,
ADACHI Natsuko and NISHIMURA Hiroshi
Environmental impacts and mineralogical characteristics of dust storm in Middle-East
- 87 TERASHIMA Yukio and MORI Manami
Research Activities with Falling Acer Samara Experiment and Making Samara Models
- 93 YUJI Hiroki and SAKANE Kenji
The Effects of Participation in Saturday Classes at Elementary School on Faculty of Education Students' Views of Children
- 103 TATUOKA Yuuzi
Hayatori : changed and unchanged points in a textbook material and its views
- 115 TAKEGUCHI Yoshiaki and OGURA Masayoshi
2015 University Elementary and Junior High School "educational counseling room" activity report
- 119 UEHARA Toshiharu and KAWAKAMI Ayako
Facilitation of Deductive Reasoning by Operational Thinking
: A Proposal of 'Learning through Verification of Knowledge' Model
- 127 YOSHII Kenji
Child Understanding and Psychological Support for the Prevention of Non Attendance at School
- 135 SAKANE Kenji and KITAJIMA Takaaki
The Current Issues and Challenges of the Education Boards of Municipalities
— Questionnaire Survey for The Chairperson of Education Boards in Tokushima prefecture —
- 143 YAMANISHI Kento and OGURA Masayoshi
The influence of self-efficacy on school children's mental health
— Focusing on academic efficacy —
- 153 OBAYASHI Masafumi and SAKO Hidekazu
Development and practice of the teacher chief editor training and teacher instruction training program by the cooperation
with a teaching profession graduate school and the prefecture Board of Education, the education center
- 163 TAKAHARA Mitsue
The support idea to a child with the physical disabilities:
From the group work of the university students using the scene assumption
- 169 Jamshid AHMADIAN, MURATA Mamoru, Maryam AMINOROAYAEI YAMINI, OZAWA Hiroaki, KOZAI Takeshi,
ADACHI Natsuko and NISHIMURA Hiroshi
Mineralogy and geochemical properties of dust storm in Sistan region and Khuzestan Province, Iran

鳴門教育大学
学校教育研究紀要

No.31

- 1 藤田 雅文, 安西 純平
児童のスクール・モラールを高める教師行動に関する研究
—体育授業における教師の相互作用行動の考察—
- 11 前田 洋一
地域に貢献する教員養成大学の在り方に関する一考察
—県教育委員会と連携した学力向上の取組—
- 21 前田 洋一, 小倉 整
学校改革に対する教員の心理的抵抗の払拭に関する実践的研究
- 33 高橋 眞琴, 田中 淳一
障害者差別解消法と学校教育
—米国カリフォルニア州での特別教育を経験して—
- 41 原田 茉耶, 高橋 眞琴
障がいのある人への地域での教育的支援に関する一考察
—韓国での実践を手がかりに—
- 49 高橋 眞琴, 横山 由紀, 田中 淳一
発達障がいのある子どもたちへの地域連携を基盤とした発達支援
—音楽療法による発達支援の実践を通して—
- 57 山田あづさ, 西村 公孝, 池田 誠喜,
前田 洋一
保健体育授業におけるフロー体験と基本的心理欲求の充足の関連
- 65 久米 真里, 池田 誠喜
マネジメントサイクルを活用した小学校保健室経営の改善
- 75 Jamshid AHMADIAN, MURATA Mamoru,
Maryam AMINOROAYAEI YAMINI,
OZAWA Hiroaki, KOZAI Takeshi,
ADACHI Natsuko and NISHIMURA Hiroshi
Environmental impacts and mineralogical characteristics of dust storm
in Middle-East
- 87 寺島 幸生, 森 愛実
カエデの翼果の落下実験と翼果の模型作りを行う探究活動
- 93 湯地 宏樹, 阪根 健二
土曜日授業への参加と子ども観の関係
- 103 立岡 裕士
早鳥／はやとり : 教材・教材観の変化・不変化
- 115 竹口 佳昭, 小倉 正義
平成 27 年度 附属小学校・附属中学校「教育相談室」活動報告
- 119 植原 俊晴, 川上 綾子
操作的思考による演繹推論の促進
—「知識の検証による学習」モデルの提案—
- 127 吉井 健治
不登校の予防のための子ども理解と支援
- 135 阪根 健二, 北島 孝昭
市町村教育委員会が直面している課題と取組みについて
—徳島県内の市町村教育長への質問紙調査より—
- 143 山西 健斗, 小倉 正義
自己効力感が児童・生徒の精神的健康に与える影響
—学習に関する自己効力感に着目して—
- 153 大林 正史, 佐古 秀一
教職大学院と県教育委員会・教育センターとの連携による主幹・
指導教諭研修プログラムの開発と実践
- 163 高原 光恵
肢体不自由のある子どもへの支援に関するアイデア
—場面想定を用いた大学生のグループワークから—
- 169 Jamshid AHMADIAN, MURATA Mamoru,
Maryam AMINOROAYAEI YAMINI,
OZAWA Hiroaki, KOZAI Takeshi,
ADACHI Natsuko and NISHIMURA Hiroshi
Mineralogy and geochemical properties of dust storm in Sistan region and
Khuzestan Province, Iran

鳴門教育大学学校教育研究紀要 投稿要項

H26. 6. 1 一部改正

H27. 5. 1 一部改正

- 鳴門教育大学学校教育研究紀要（以下「紀要」という。）は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - 地域連携センター（以下「センター」という。）の客員研究員研究プロジェクト（以下「研究プロジェクト」という。）の研究成果である未発表の投稿論文
 - センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
 - 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - その他センター所長が特に認めた者ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生（連合大学院生を含む。）のうちいずれかとする。
 - 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
 - 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
 - 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
 - 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
 - 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
 - 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25mm、20mm、15mm、15mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル（英文）、著者名、所属と所在地、著者名（英文）、所属と所在地（英文）、抄録（200～400字）、キーワード（重要な順に3～5語）、アブストラクト（英文、200ワード以内）、キーワード（英文）を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組（25字×48行×2段組、段間は10mm程度）で記す。
本文の書体は明朝体（9pt）を標準とする。句読点は、原則として「（コンマ）」と「。（句点）」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
 - 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト（200ワード以内）、キーワード（重要な順に3～5語）を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組（48行×2段組、段間は10mm程度）で記す。
本文の書体はTimes（9pt）を標準とする。
 - 氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は、和文及び英文原稿ともに、母国の標記の順序（例：日本語の場合はYAMADA Taro）とし、姓は大文字で表記する。
 - 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体（9pt）全角で、英文原稿ではArial（9pt）で、次のようにする。
大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
I. …
1. …
1) …
2) …
3) …
2. …
 - 図表
 - 図（写真を含む）や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。
図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig. 1、Fig. 2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable 1、Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体（9pt）、英文原稿ではArial（9pt）で、中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人（研究費）負担とする。
 - 参考文献及び引用文献
 - 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
(例) GAGNE (1970b) は……
前田 (1969) は、……。
……と述べている (GAGNE, 1970b)。
……と述べている (前田, 1969)。
 - 文献は、投稿論文の最後一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名（書名）、巻（号）、ページ。
(例) 鳴門太郎 (1900), 日本の学校, 日本教育, 16(1), pp.1-10.
鳴門太郎:『日本の学校』、『日本教育』, Vol.16, No.1, pp.1-10, 1990年.
『日本の学校』, 鳴門太郎, 『日本教育』, 第16巻第1号, 1-10頁, 1990年.
 - 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
(例) 鳴門太郎編著 (1900), 日本の学校, 日本出版, pp.1-200.
鳴門太郎編著:『日本の学校』, 日本出版, 1-200頁, 1990年.
『日本の学校』鳴門太郎編著 (日本出版, 1990年, 全200頁)
 - 外国文献の単行本の場合は、編著者名 (出版年), 書名, 出版社所在地, 出版社, ページ。
(例) NARUTO, Taro (1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
 - 注記は必要な場合には本文の最後、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2) のように示す。
 - 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
- 投稿は、文書ファイルを、社会連携課地域連携係までメール (chiiki@naruto-u.ac.jp) にて提出する。
- 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受付けない。
なお、著者校正は初校のみとする。
- 別刷の費用は、個人（研究費）負担とする。

2016年度 学校教育研究紀要編集委員会委員

阪 根 健 二 地域連携センター所長

泰 山 裕

藤 原 伸 彦

2016年度 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.31

発行年月 2017年2月

編集 鳴門教育大学地域連携センター

発行 鳴門教育大学地域連携センター

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

電話 088-687-6101 FAX 088-687-6100

印刷 (協)徳島印刷センター

〒770-8056 徳島市問屋町165

電話 088-625-0135 FAX 088-622-0734